

シーニックバイウエイルート提案の応募結果

1. 概要

シーニックバイウエイ北海道推進協議会では、これまでにシーニックバイウエイルートとして7ルートを指定、候補ルートとして4ルートを登録しています。

新たに「十勝平野・山麓ルート」及び、1箇所の候補ルートの提案がありました。

(平成21年3月6日締め切り分)

2. 提案のあったルート

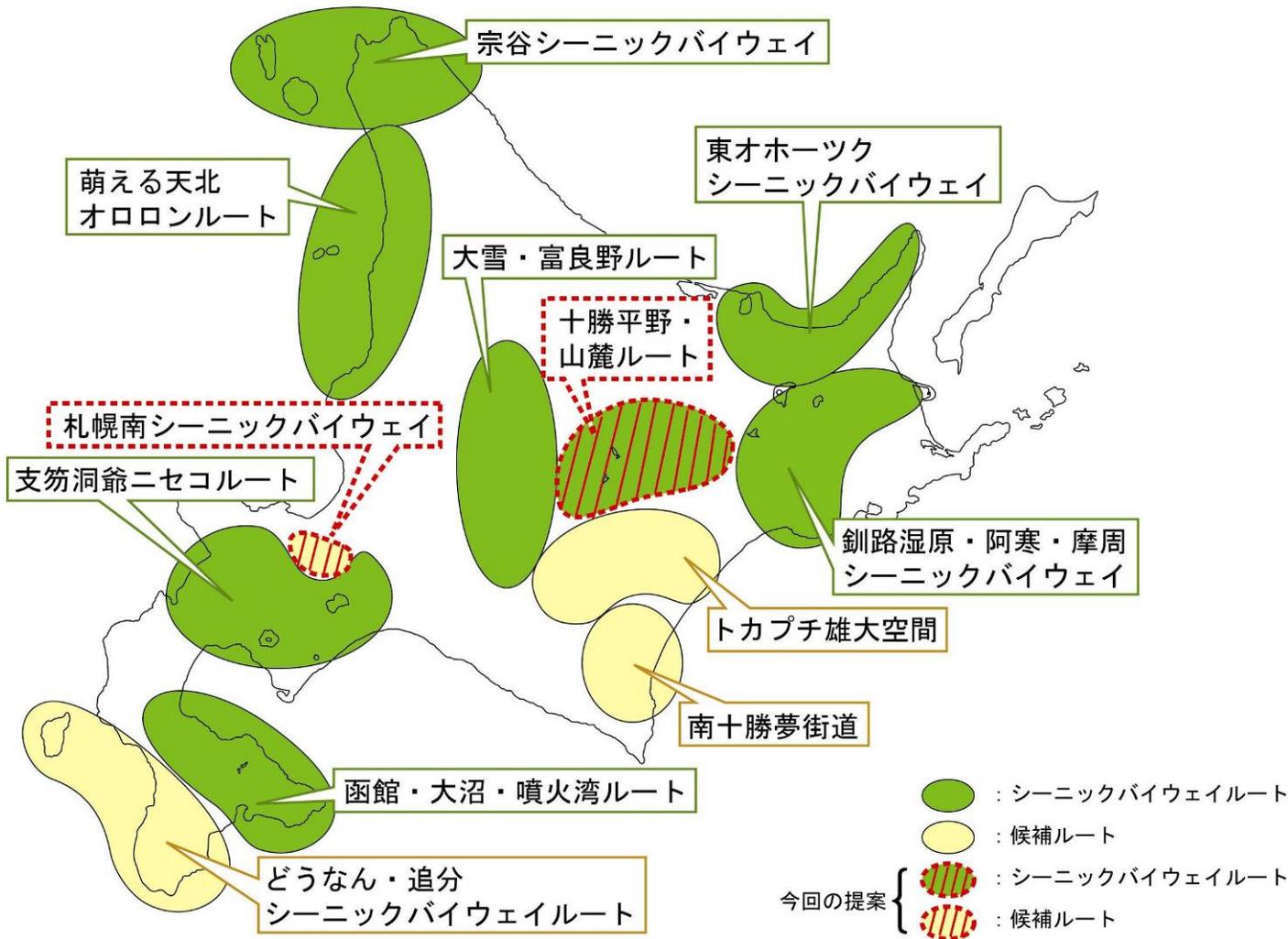
(1) シーニックバイウエイルート

ルート名	十勝平野・山麓ルート
申請月日	平成21年3月6日
関係市町村	新得町、清水町、鹿追町、士幌町、上士幌町、足寄町(6町)
提案者	「十勝平野・山麓ルート」ルート代表者会議
代表者	三井 福成(鹿追町商工会)
構成団体	38団体

(2) シーニックバイウエイ候補ルート

ルート名	札幌南シーニックバイウエイ
申請月日	平成21年3月4日
関係市町村	札幌市(南区)(1市)
提案者	札幌南シーニックバイウエイルート運営代表者会議
代表者	福士 昭夫(石山地区町内会連合会)
構成団体	32団体

シーニックバイウェイ北海道 ルート指定の状況



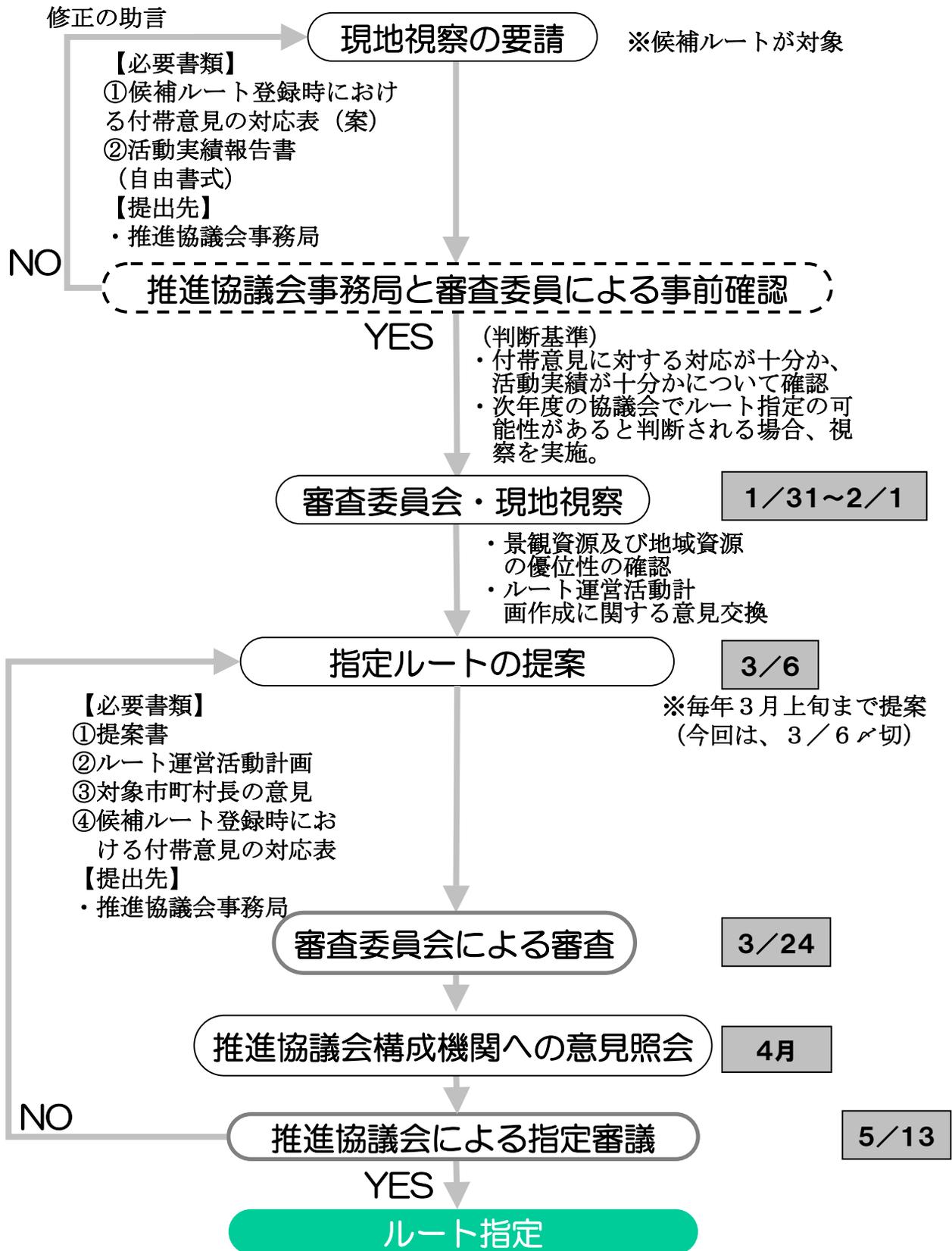
1次指定ルート	H 17 ・ 5 ・ 9	3 ル ー ト	<ul style="list-style-type: none"> ●支笏洞爺ニセコルート ●大雪・富良野ルート ●東オホーツクシーニックバイウェイ
2次指定ルート	H 18 ・ 4 ・ 18	1 ル ー ト	<ul style="list-style-type: none"> ●宗谷シーニックバイウェイ
3次指定ルート	H 18 ・ 11 ・ 13	2 ル ー ト	<ul style="list-style-type: none"> ●函館・大沼・噴火湾ルート ●釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
4次指定ルート	H 20 ・ 5 ・ 12	1 ル ー ト	<ul style="list-style-type: none"> ●萌える天北オロロンルート

【候補ルート登録】

- ◆第1次登録（平成17年5月9日）
 - 函館・大沼・噴火湾ルート
 - 釧路湿原・阿寒・摩周ルート
- ◆第2次登録（平成18年4月18日）
 - 南十勝夢街道
 - 十勝平野・山麓ルート
 - 萌える天北オロロンルート
- ◆第3次登録（平成18年11月13日）なし
- ◆第4次登録（平成20年5月12日）
 - どうなん・追分シーニックバイウェイルート
 - トカプチ雄大空間

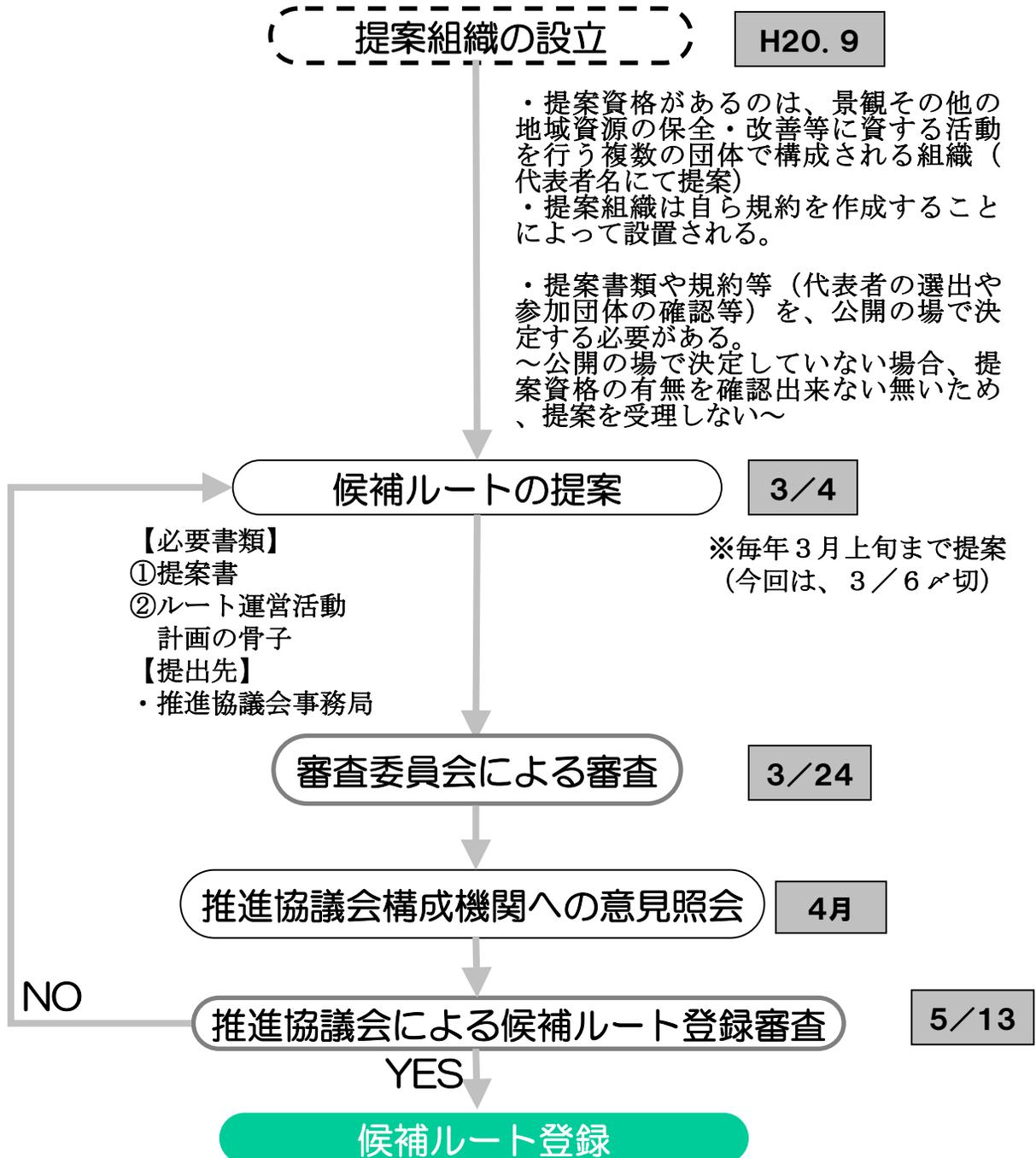
平成21年度 シーニックハイウェイの指定フロー

十勝シーニックイウェイ 十勝平野・山麓ルート



平成21年度 シーニックハイウェイ候補ルートの登録フロー

札幌南シーニックハイウェイ



○ルート運営活動計画

1. 十勝平野・山麓ルート

○ルート運営活動計画（骨子）

1. 札幌南シーニックバイウェイ

十勝シーニックバイウェイ

十勝平野・山麓ルート

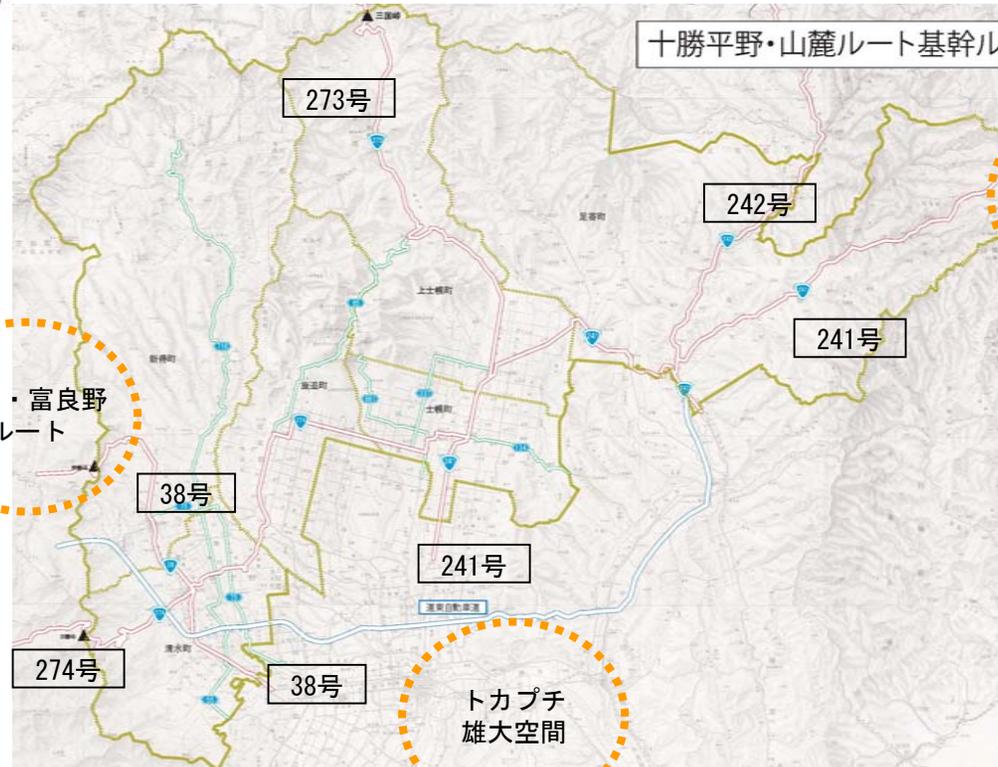
～ルートのテーマ～

スケールは日本一 『広さ』・『環境』・『ツーリズム』・『農』



ルートエリア

十勝の西北部に位置する新得・清水・鹿追・士幌・上士幌・足寄の6町を巡るもので、国道38号線、241号線273号線、274号線、および周辺の道道、町道をエリアとする、日高山脈と東大雪の山裾を巡るルートです。



大雪・富良野
ルート

釧路・阿寒・
摩周シーニック
バイウエイ

トカプチ
雄大空間



1. 景観



将来展望：
雄大な景観を活かすために、住んで気持ちのよい、訪ねてみて美しい景観づくりを進めます。

2. 観光



将来展望：
地域の魅力をさらに楽しんでいただくために、目的別、対象者別のモデルルートを選定します。

3. 地域づくり



将来展望：
常に内からの目と外からの目を意識しながら、連携した地域づくりを進めます。

4. 環境



将来展望：
地域や活動団体が取り組んでいるツ環境ツアーや「シーニックの森」活動などとも連携しながら、環境を守り育てていく活動を目指します。

● 広大な十勝平野

- 東京都の約2倍の広大な面積
- 日本一の広さを誇る公共牧場(ナイタイ高原牧場)
- 15kmに及ぶ直線路(国道274号)



● 深い森（峠からの眺望）と点在する湖・温泉

- 原生自然環境保全地域(新得町)
- 日勝峠・狩勝峠・三国峠・阿寒周辺の鬱蒼とした森
- 然別湖・糠平湖・東大雪湖・オンネトー湖等の湖
- 各エリアに湧出する温泉



● 伸びやかな農村景観

- ジャガイモの花やソバの花
- 青々とした牧草地・黄金色の麦畑
- 冬の白銀の世界
- 季節ごとの広大で美しい農村景観



● 街と道を彩る花々と ホスピタリティー溢れる人々

- ボランティアサポートプログラムなどを活用した
地域ごとの環境美化や街路整備



● 多様なグリーンツーリズムと 数々のアウトドア体験メニュー

- 然別湖ネイチャーセンター
(北海道のアウトドア体験の草分け的存在)
- 季節を問わず、山・川・湖・空・山麓などを利用した
あらゆる体験メニューが揃う



● 食

- 農業王国十勝(食料自給率1,100%)
- 道内随一のソバ名産地(新得・鹿追)
- 小麦やジャガイモ、乳製品などを活用したファ
ームレストランが多数存在



十勝平野・山麓ルート 代表者会議 (参加団体の代表者全員で組織)

幹事会

役員会

事務局

行政連絡会議

観光振興分科会

景観形成分科会

地域づくり分科会

活動方針

- 地域の農・食・産品を繋げて活かそう
- 提案型観光地づくりの検討
- 地域資源の発見と共有に取り組もう

活動方針

- 地域が一体となった情報発信の検討
- 地域のシーニック運営への意識を高めよう

活動方針

- 地域の景観資源を守ろう、活かそう
- 特色溢れる景観を創出しよう
- 沿道景観を取り巻く環境向上に向けた取り組み

活動目標

「道とみち、街と町、現在と未来をつなぐ十勝平野・山麓ルート」

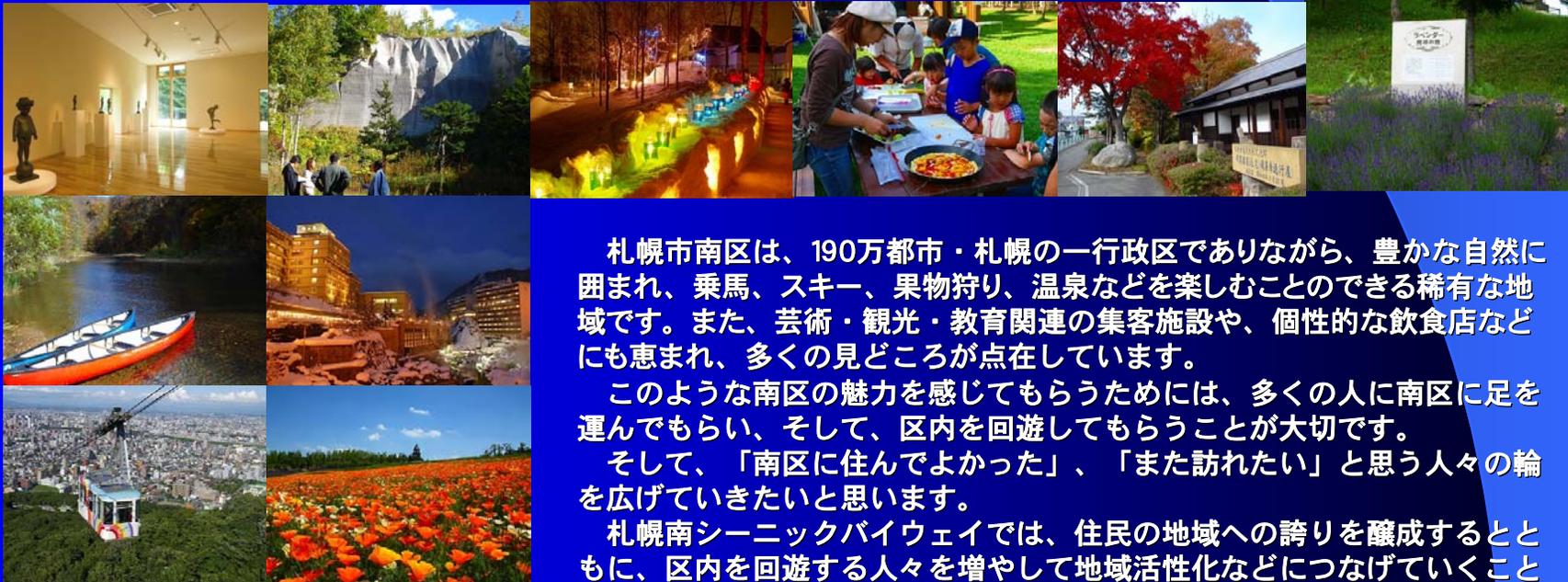
活かそう・守ろう・地域資源



シーニックバイウェイ北海道候補ルート 札幌南シーニックバイウェイ 運営活動計画骨子

自然・歴史・遊びを満喫する

「住んでよし、訪れてよし」の都市空間



札幌市南区は、190万都市・札幌の一行政区でありながら、豊かな自然に囲まれ、乗馬、スキー、果物狩り、温泉などを楽しむことのできる稀有な地域です。また、芸術・観光・教育関連の集客施設や、個性的な飲食店などにも恵まれ、多くの見どころが点在しています。

このような南区の魅力を感じてもらうためには、多くの人に南区に足を運んでもらい、そして、区内を回遊してもらうことが大切です。

そして、「南区に住んでよかった」、「また訪れたい」と思う人々の輪を広げていきたいと思えます。

札幌南シーニックバイウェイでは、住民の地域への誇りを醸成するとともに、区内を回遊する人々を増やして地域活性化などにつなげていくことを目指しています。

ルートエリア

政令指定都市・札幌と道南を結ぶ幹線道路である国道230号、伊達市とを結ぶ国道453号。そして、道道や市道沿いには、観光スポットや見どころなどが点在しており、多くの人々が国道からわき道(バイウエイ)に入ります。
 地域資源が国道沿いに集中していないのが特徴であり、国道を玄関口に、道道・市道を回遊し、地域の魅力を感じることができるのが札幌南シーニックバイウエイです。

●対象市町村 札幌市南区



面積657.23Km²
 ※全市域の約60%
 東京23区がすっぽり入る大きさ

●対象となる主な幹線道路

- 国道230号、国道453号
 - 道道1号小樽定山溪線
 - 道道82号西野真駒内清田線
 - 道道95号京極定山溪線
 - 道道341号真駒内御料札幌線
 - 道道814号滝野上野幌自転車道線
- (国道2路線、道道5路線、市道17路線ほか)



ルートの特徴①

南区は、札幌市の10行政区の1つであり、約15万人が暮らしています。区内には、定山溪温泉をはじめ、国営滝野すずらん丘陵公園、藻岩山展望台、札幌芸術の森など、札幌市を代表する観光スポットが点在しており、1年を通じて多くの人々が訪れています。また、豊かな自然に恵まれ、札幌中心部から程近い場所で、果物狩り、自然観察、乗馬、カヌー、スキーなどを楽しむことができます。

自然風景



花街道



地産地消



環境保全・活用



交流と賑わい



幻想空間



ルートの特徴②

情報媒体



歴史・文化



安全・安心



集客施設



体験メニュー



特産品

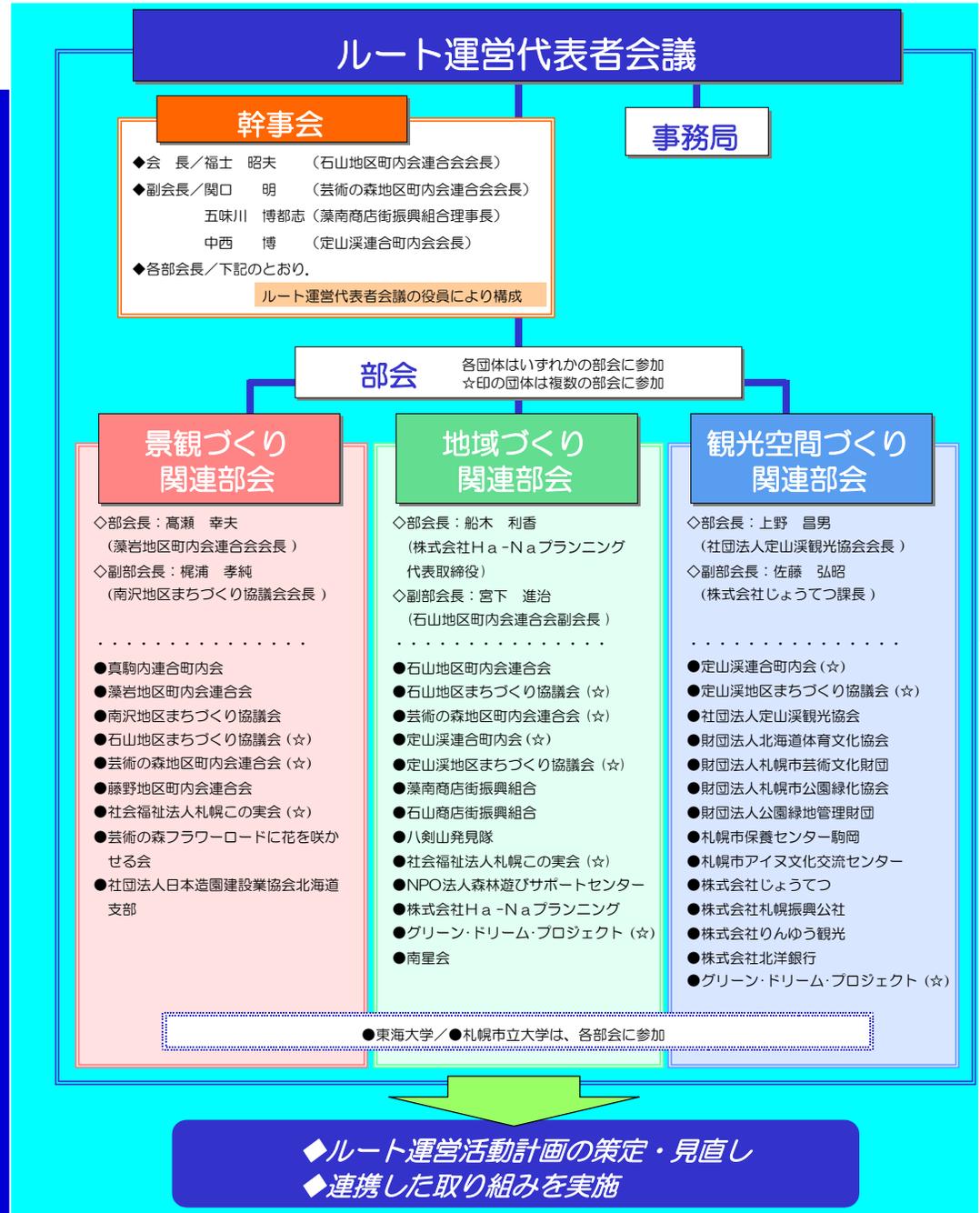


運営体制

●参加団体

町内会	6
商店街	6
まちづくり団体	8
大学	2
集客施設	8
その他	6
(合計32団体)	

「景観づくり」、「地域づくり」、
「観光空間づくり」の各部会では、
今後の取り組みの方向性を踏まえ
ながら、
「団体間で連携できること」、
「多くの人に足を運んでもらうために
できること」
を検討しています。

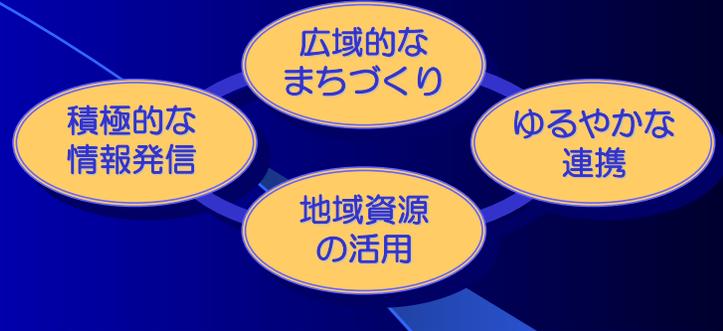


活動方針

●活動方針

テーマ	活動目標
●美しい景観づくり 札幌の玄関口にふさわしい 魅力あふれる 景観づくり	眺望の優れた場所の整備・活用 広域的な花街道づくり 広域的な幻想空間の創出
●活力ある地域づくり 自然・歴史・文化を伝え、 いきいきと暮らせる 地域づくり	環境の保全・活用 地産地消の推進 交流と賑わいの創出 多様な媒体を活用した情報の受発信 歴史・文化の紹介 安心して暮らせるまちづくり
●魅力ある観光空間づくり 南区を肌で感じる 体験・回遊の観光振興	体験メニューの拡充 集客施設の回遊性向上 特産品の開発・PR

●取組のキーワード



広域的なまちづくり

区内の様々な取り組みをつなげ、回遊性を高めるとともに、花植えやアイスキャンドルなどの一体感や統一感の醸成を図ります。

ゆるやかな連携

取り組みの内容に応じて、「協力できる場所があれば協力する」という、ゆるやかな関係を大切にします。

地域資源の活用

足元の地域資源を見つめ直し、「この地域ならではの」の特色を生かした取り組みを推進します。

積極的な情報発信

多様な広報媒体や各種ネットワークを活用して広く内外への情報発信に努めます。



平成 21 年 3 月 24 日

ルート審査委員会

ルート審査委員会の審査結果

(1) シーニックバイウェイルート

①十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート

視点※ 委員	1					2	3	4	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○	○	○	-	○	○	○	○	①ルート独自のブランド化戦略への強い意識②十勝エリアの他ルートとの連携の更なる強化③行政・住民・地元企業との強い連携による活動④地域の顔づくりの企画・運営・発信の更なる強化⑤今起きている現象に加え地域に潜在する物語性の発掘、が必要
B	○	○	-	○	○	○	○	○	○	①「十勝」のブランド性をさらに強化し活用するための他ルートとの柔軟な連携・協働のあり方の追求②環境モデル都市に選定された帯広を核とした環境連携③地球に優しい「十勝」というコンセプトの運営計画への組み込み、に期待
C	○	○	-	-	○	○	○	○	○	オンリーワンの素材や受け入れサービス、ユニークな情報発信と誘客活動で「顔の見える」ルート活動に期待
D	○	○	-	-	○	○	○	○	○	①「十勝シーニックバイウェイ」の最初のルートとして推薦②今後他の2つの候補が指定された際は、「十勝平野・山麓ルート」をサブネームとして使用する形が良い
E	○	○	-	-	○	○	○	○	○	特になし
F	○	-	-	-	○	○	○	○	○	特になし

※視点

- 1：優れた景観資源の有無及び地域資源の優位性
- 2：活動団体によるルート運営活動計画の主導的な推進
- 3：地域住民等と行政が一体となった地域の魅力向上の取り組み
- 4：景観の質の向上、ルートのブランド化、地域の活性化

(2) シーニックバイウェイ候補ルート

①札幌南シーニックバイウェイ

委員	1					2	推薦可否	付帯意見
	視点※ 景観	自然	文化	歴史	レク			
A	○	—	—	—	○	○	○	①ルート活動を貫く理念と哲学の明確化②人材育成体制の構築③大学と地域活動団体の包括的連携の推進、が必要
B	○	○	○	—	—	○	○	特になし
C	○	○	○	—	○	○	○	特になし
D	—	○	○	○	○	○	○	既存の観光資源、イベントに留まらない、広域的な新しい取り組みについて重点課題として検討が必要
E	○	○	—	—	○	○	○	特になし
F	○	—	○	—	—	○	○	活動の継続性が重要

※視点

1：優れた景観資源の有無及び地域資源の優位性

2：シーニックバイウェイルートへの申請に向けた今後の取り組みについて

平成21年3月24日
ルート審査委員会

ルート審査委員会 意見

■シーニックバイウエールート

◆十勝シーニックバイウエイ 十勝平野・山麓ルートに対する意見

●景観資源・地域資源の優位性

遠景の山々に取り囲まれ、パノラマとして広がる十勝平野の農村風景は、北海道全体の雄大なイメージを象徴する我が国随一の景観資源であり、また、耕地防風林や近代土木遺産など北海道開拓の歴史や冬の十勝特有の明るく引き締まった寒さが体感できること等の貴重な地域資源にも恵まれ、十分な優位性が認められる。

他方、これら資源については、アイヌ民族を含む先達に培われた地域の歴史・文化と重ね合わせた物語の発掘や新たなストーリーづくり、それらを発信できる人材育成等を通じて、その存在感、意味づけを強化することが重要である。

●地域の魅力向上、ルートのブランド化

「十勝平野・山麓ルート」としての独自性を磨いていくためには、「食」・「癒し」・「環境」などをテーマに、豊かな自然環境を背景とした農業・酪農等の営みが生み出す本物の豊かさ＝「自然資本」に勝る十勝のライフスタイル、クオリティ・オブ・ライフが実感できる取組を推進していくことが重要である。その推進にあたっては、女性・若年層も含めた地域住民等の幅広い連携・参加を求めていくことが望まれる。

また、「十勝シーニックバイウエイ」のブランド力を強化し、その活用を図るためには、来る道東自動車道の開通を見据えつつ、道東のゲートウェイとして、十勝エリアの他ルートとの連携・協働を先導しながら、地域や活動団体が有する物的・人的資源やノウハウを最大限に活かしたコミュニティビジネスの創出や、国内外を対象とした積極的なプロモーション活動を進めていくことが期待される。

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆候補ルート全体に対する意見

ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、シーニックバイウェイについての理解を深め、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化に向け、引き続き取り組むこと。

あわせて、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの方策、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた幅広い連携・協働のあり方の検討、それらを活用した取組を推進していくことが重要である。

◆札幌南シーニックバイウェイに対する意見

道都札幌の都市性とその周縁部に広がる原始の自然が調和したアーバンツーリズム(都市観光)を特長とするルートとして、極めて高い可能性が認められる。これは、地方部における既存の指定ルートが、その雄大な自然景観を主要資源としてきたこととは本質的に性格が異なり、シーニックルートの新たなモデルとしても興味深く評価される。

他方、南区という行政区域・地域概念に留まることなく、地域の生活者・札幌市民の視点のみならず来訪者の視点を重視しながら、本ルート全体の理念・イメージを明確にすること、その理念・イメージに対応したルート範囲の再設定、そして、ブランドイメージを喚起しうるルート名称への変更が必要である。

また、地域内の既存活動の継続に加えて、「都市とその周縁部における森林など自然環境との共生」、「創造性を育む環境都市づくり」などをテーマに、ルート活動としての独自・新規の取組を進めること、これら取組を通じて本ルートに対する活動参加者・市民の意識の共有を幅広く図ることが必要である。

平成 21 年 5 月 13 日
シーニックバイウェイ北海道推進協議会

シーニックバイウェイルート指定等について（案）

- シーニックバイウェイ北海道実施要綱第 18 条第一項及び第二項の規定に基づき、次のとおりシーニックバイウェイルート指定を行う。

ル ー ト 名：十勝平野・山麓ルート

関係市町村：新得町、清水町、鹿追町、士幌町、上士幌町、足寄町（6 町）

提 案 者：「十勝平野・山麓ルート」ルート代表者会議

- シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針に基づき、シーニックバイウェイ北海道実施要綱第 18 条第一項及び第二項の規定に準じて、次のとおりシーニックバイウェイ候補ルートの登録を行う。

ル ー ト 名：札幌南シーニックバイウェイ

関係市町村：札幌市（南区）（1 市）

提 案 者：札幌南シーニックバイウェイルート運営代表者会議

なお、上記指定・登録を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

シーニックバイウェイ北海道推進協議会 意見 (案)

■シーニックバイウェイルート

◆十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルートに対する意見

●景観資源・地域資源の優位性

遠景の山々に取り囲まれ、パノラマとして広がる十勝平野の農村風景は、北海道全体の雄大なイメージを象徴する我が国随一の景観資源であり、また、耕地防風林や近代土木遺産など北海道開拓の歴史や冬の十勝特有の明るく引き締まった寒さが体感できること等の貴重な地域資源にも恵まれ、十分な優位性が認められる。

他方、これら資源については、アイヌ民族を含む先達に培われた地域の歴史・文化と重ね合わせた物語の発掘や新たなストーリーづくり、それらを発信できる人材育成等を通じて、その存在感、意味づけを強化することが重要である。

●地域の魅力向上、ルートのブランド化

「十勝平野・山麓ルート」としての独自性を磨いていくためには、「食」・「癒し」・「環境」などをテーマに、豊かな自然環境を背景とした農業・酪農等の営みが生み出す本物の豊かさ＝「自然資本」に勝る十勝のライフスタイル、クオリティ・オブ・ライフが実感できる取組を推進していくことが重要である。その推進にあたっては、女性・若年層も含めた地域住民等の幅広い連携・参加を求めていくことが望まれる。

また、「十勝シーニックバイウェイ」のブランド力を強化し、その活用を図るためには、来る道東自動車道の開通を見据えつつ、道東のゲートウェイとして、十勝エリアの他ルートとの連携・協働を先導しながら、地域や活動団体が有する物的・人的資源やノウハウを最大限に活かしたコミュニティビジネスの創出や、国内外を対象とした積極的なプロモーション活動を進めていくことが期待される。

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆候補ルート全体に対する意見

ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、シーニックバイウェイについての理解を深め、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化に向け、引き続き取り組むこと。

あわせて、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの方策、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた幅広い連携・協働のあり方の検討、それらを活用した取組を推進していくことが重要である。

◆札幌南シーニックバイウェイに対する意見

道都札幌の都市性とその周縁部に広がる原始の自然が調和したアーバンツーリズム(都市観光)を特長とするルートとして、極めて高い可能性が認められる。これは、地方部における既存の指定ルートが、その雄大な自然景観を主要資源としてきたこととは本質的に性格が異なり、シーニックルートの新たなモデルとしても興味深く評価される。

他方、南区という行政区域・地域概念に留まることなく、地域の生活者・札幌市民の視点のみならず来訪者の視点を重視しながら、本ルート全体の理念・イメージを明確にすること、その理念・イメージに対応したルート範囲の再設定、そして、ブランドイメージを喚起しうるルート名称への変更が必要である。

また、地域内の既存活動の継続に加えて、「都市とその周縁部における森林など自然環境との共生」、「創造性を育む環境都市づくり」などをテーマに、ルート活動としての独自・新規の取組を進めること、これら取組を通じて本ルートに対する活動参加者・市民の意識の共有を幅広く図ることが必要である。